

茨城サッカー 五十年の歩み

茨城サッカー五十年の歩み

茨城県サッカー協会

L783
イバ

日立市立記念図書館



1011572201

歴代会長



初代会長 加藤 高蔵 氏
自昭和22年8月 至昭和24年8月



第二代会長 志村 国作 氏
自昭和24年8月 至昭和35年8月



第三代会長 大場 千秋 氏
自昭和35年8月 至昭和44年4月



第四代会長 兼子 松太郎 氏
自昭和44年4月 至昭和52年4月



現会長 志村 巍 氏
自昭和52年4月 至現在

歴代理事長



初代理事長 石川 三郎 氏
自昭和21年7月 至昭和23年6月



第二代理事長 鎌田 恒久 氏
自昭和23年6月 至昭和24年8月



第三代理事長 藤郷 稔 氏
自昭和24年8月 至昭和26年4月



第四、六代理事長 中村 正雄 氏
自昭和26年4月 至昭和28年4月
自昭和42年4月 至昭和53年4月



第五代理事長 市毛 雅男 氏
自昭和28年4月 至昭和42年4月



第七代理事長 助川 和夫 氏
自昭和54年4月 至昭和63年4月



第八代理事長 林 武史 氏
自昭和63年4月 至平成2年4月



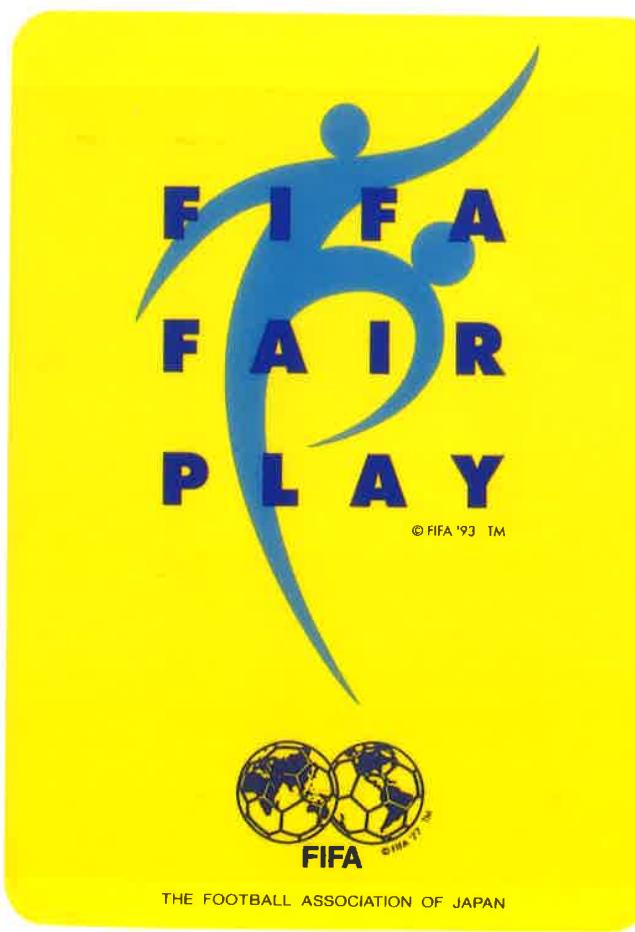
第九代理事長 佐久間 澄 氏
自平成2年4月 至平成8年4月



現理事長 原 勝男 氏
自平成8年4月 至現在



茨城県サッカー協会旗



THE FOOTBALL ASSOCIATION OF JAPAN

フェアプレー旗



昭和56年 第5回全日本少年サッカー大会3位 古河市サッカー少年団



昭和62年 第11回全日本少年サッカー大会
第3位 日立市サッカー少年団



大久保中学校
第20回全国中学校サッカー大会準優勝

U-14ヨーロッパ遠征



オランダでの集合写真



茨城県国体選抜選手
U-14 茨城選抜選手 壮行会



年度	部長	委員長	県東	県西	水戸	県南	県北	関東	全国 総体	国体	選手権	新人	備 考
48	柴田東海男	助川和夫	根本 賢	藤野親五	坂本 武	下代恒夫	林 武史	古一	古一	古一	古一 日工	古一 全国総体ベスト8 全国選手権ベスト8	
49	桧山憲誓	助川和夫	根本 賢	藤野親五	坂本 武	下代恒夫	林 武史	古一	古一	○	水商	古一	古一 関東大会1位 国体1位 全国総体ベスト8
50	桧山憲誓	助川和夫	根本 賢	藤野親五	内田弘道	下代恒夫	林 武史	古一	水商	○	古一	古一	水商 関東大会1位 全国総体3位
51	河内義一	助川和夫	額賀洋也	藤野親五	峯田喜一郎	下代恒夫	古谷 繢	古一	古一	○	古一	水商 鹿島	古一 関東大会1位 全国総体2位 水商 関東大会2位
52	河内義一	助川和夫	根本 賢	藤野親五	峯田喜一郎	下代恒夫	古谷 繢	古一	日一	○	日一	水商	古一 関東大会1位 国体4位
53	河内義一	助川和夫	根本 賢	藤野親五	峯田喜一郎	下代恒夫	古谷 繢	水商	水商	○	古一	古一	水商 全国総体3位 古一 全国選手権1位 国体ベスト8
54	河内義一	成井秀久	根本 賢	藤野親五	峯田喜一郎	下代恒夫	熊谷芳郎	古一	水商	○	水商	古一	古一 関東大会1位 国体2位 古三 関東大会3位 水商 全国総体1位 全国選手権3位
55	河内義一	成井秀久	根本 賢	藤野親五	武藤 昇	下代恒夫	熊谷芳郎	古一	水商		古一	古一	古一 関東大会2位 全国選手権1位 水商 全国総体3位
56	鈴木 勲	成井秀久	根本 賢	藤野親五	武藤 昇	下代恒夫	熊谷芳郎	古一	水商	○	古一	古一	古一 関東大会1位 全国選手権3位
57	鈴木 勲	佐久間澄	根本 賢	藤野親五	山田紀男	下代恒夫	熊谷芳郎	古一 境	古一		水商	古一	古一 全国総体ベスト8
58	萩原 栄	佐久間澄	根本 賢	藤野親五	山田紀男	下代恒夫	熊谷芳郎	水商 境	水商	○	日工	日工	水商 全国総体2位
59	萩原 栄	佐久間澄	内野 浩	米田良雄	山田紀男	下代恒夫	熊谷芳郎	日工	日工	○	日工	古一	日工 全国総体ベスト8 日工 全国選手権ベスト8 国体3位
60	萩原 栄	佐久間澄	内野 浩	米田良雄	山田紀男	高梨 隆	熊谷芳郎	古一 水商	水商	○	古一	日工 境	国体3位
61	川上宏昭	佐久間澄	内野 浩	米田良雄	山田紀男	高梨 隆	熊谷芳郎	境	水商	○	古一	古一	
62	川上宏昭	佐久間澄	内野 浩	米田良雄	山田紀男	高梨 隆	熊谷芳郎	日工	水商	○	古一	水商	
63	清水光夫	佐久間澄	内野 浩	米田良雄	山田紀男	高梨 隆	熊谷芳郎	水商 境	古一	○	水商	水商 古三	古一 全国総体2位
元年	清水光夫	佐久間澄	内野 浩	米田良雄	山田紀男	岩間保男	大江文博	境 日工	古一		日工	日一	
2	清水光夫	小泉敏治	内野 浩	米田良雄	佐藤純平	岩間保男	大江文博	日一	水商	○	水商	日工	
3	清水光夫	小泉敏治	内野 浩	米田良雄	佐藤純平	岩間保男	大江文博	柳川	境	○	水商	日一	国体3位
4	清水光夫	小泉敏治	内野 浩	米田良雄	佐藤純平	岩間保男	大江文博	古一	水商	○	古一	古一	
5	田山幸男	小泉敏治	内野 浩	米田良雄	佐藤純平	岩間保男	大江文博	境	水短附	○	水短附	日工	
6	小菅次男	清水 伸	内野 浩	米田良雄	佐藤純平	岩間保男	大江文博	古一	日工		水短附	水商	
7	小菅次男	清水 伸	内野 浩	米田良雄	佐藤純平	中江哲史	大江文博	鹿島	水商		鹿島	水商	
8	小菅次男	清水 伸	内野 浩	米田良雄	佐藤純平	中江哲史	大江文博	桜ノ牧		水商	水短附	水商 関東大会2位	

中体連サッカーの部 新たな飛躍を

第3種 委員長 鈴木 克則

● はじめに ●

日本国内において、Jリーグ人気を始め、競技人口も小学生から一般までふえております。第3種(中学校等)の立場では、サッカー王国復活のためにも、やはり底辺の拡大と充実に重要な役割を果たすのではないか。また、近年競技レベルも年々高くなっており、技術向上も目覚ましいものがありますが、各大会に参加するたびにいろいろと課題があがっているのも事実です。

サッカーの普及が目的に、昭和25年、1回中学校サッカー選手権大会が開催されました。昭和34年度より、県中学校体育連盟にサッカー競技部が設置され、県民総合体育大会が、8月に開催され、中学校サッカー選手権大会は合流されました。昭和40年には、県新人体育大会が設置され、中学生に広く大会に参加する機会を持つことができました。そして、茨城国体に向けてのジュニア層の競技力向上策を目的として、昭和46年には、県ジュニアサッカー大会が設置されました。これは、他県はない、多種目もない、中学校一年生の大会であり、一年生にも目標に向かって練習に励むことができる大会であり、各地区のサッカー少年団の向上とともに、毎年レベルアップを感じております。昭和56年には、茨城新聞社のご協力を得て、第1回茨城県中学校サッカー選手権大会が開催されました。この大会は、県民総体が終わった後行われる大会であり、次の高校サッカーへのステップとして、県の優秀校26チームが選抜され技術等を競う大会となり、定着したこと喜ばしいことです。

また、関東中学校サッカー大会では、茨城県勢が過去10回の優勝を遂げ、充実している時代も忘れてはなりません。当時の委員長の根本朝寿先生を中心としたスタッフの競技力の着実な歩みの成果ともいえるでしょう。

昭和62年度より、競技向上の対策として、中央・県北・県南・県東・県西の各地区に分かれ、トレーニングセンターによる選手強化を開始しま

した。これは一年生から三年生まで各学年に分かれ、各地区の優秀な選手を選抜し、発達段階に応じて、ていねいに一貫性のある指導をしていくものです。さらに上のレベルとして、茨城県選抜を各学年で編制し、日立カップを始め、近県の各大会に毎年参加しています。また、毎年暮れに、一年生から三年生までの茨城県選抜と各地区的二年生の選抜チームを交え、地区選抜サッカー大会を開催しております。ここ数年、スタッフも黄金時代を築き、現在教職に就かれている先生方を中心充実してまいりました。

また、最近、さまざまな海外からのプロコーチを招いて、スタッフの育成にも力を入れています。このような機会を増やすことによって、総合的に技術・競技力等の育成にも励んでいます。このような機会をこれからも多くのことで、指導者と選手たちが向上を目指していく姿勢を大切にしていきたいと思っています。

そして、平成6年からは、Jリーグ「鹿島アントラーズ」のホームである県立カシマサッカースタジアムで行われるようになり、中学生にも施設・観客数・大会の盛り上がり等、すべての面において、決勝戦にふさわしい雰囲気のなかで大会がもたれるようになったことは大変うれしいかぎりです。

このようにこれまで築き上げた成果は、その当時のさまざまなスタッフの皆様方の努力のたるものであり、これを次の世代につなげることも決して忘れてはなりません。これまで多くの優れた指導者、生徒たちによって茨城県のサッカーは、普及、拡大、充実して育てられました。この努力にわたしたちは、甘んずることなく、次代を担う生徒たちをサッカーを通して、人間づくり、そして競技力向上に一層の努力をしなくてはならないと思っております。

県内に幅広く普及したサッカーも、現在、サッカー協会登録数が過去最高180チームを数えるまでになりました。中学校での日々の部活動を始め、茨城県選抜をトップに各地区的トレセン活動

そして、鹿島アントラーズ、常総アイデンティティ、高萩フォーライングスなどのクラブチームの充実などいろいろな面での底辺基盤が確立してまいりました。

● あゆみ

◆古河一中、関東中学生サッカー大会

2年ぶり5度目の優勝！

昭和57年度県総体中学校サッカー大会は、友部中において、昭和57年7月26、27日の両日晴天に恵まれた中で行われた。ベスト4に県西3(古河一中、古河二中、水海道西中)、県北1(日高中)が残り、準決勝は、古河二中1-0水海道西中、古河一中5-0日高中。決勝は県西同志、古河一中対古河二中で行われた。両校ともスピードがあり、実力追中で、古河二中が、後半に1点を決めて優勝。関東中学校サッカー大会への出場権を獲得した。

・第13回関東中学校サッカー大会

於 山梨県

昭和57年8月10日～11日

1回戦、栃木県代表の真岡中との対戦で0-0、延長も0-0の末、PKで4-1と競り勝つたのをきっかけに、自分たちの持ち味であるスピードあふれるプレーで、準決勝では、地元山梨県代表の甲府南中を2-1、決勝では、神奈川県代表の村岡中を4-1と下し、見事2年ぶり5度目の優勝を成し遂げた。

昭和57年8月21日～25日の5日間、愛媛県で行われた第13回全国中学生サッカー大会では、10度目の出場となったが1回戦別所中(兵庫県)に0-1と惜敗した。



第13回 (山梨県公園運動場サッカー場)
昭和57年8月10日・11日

◆三和中、関東中学生サッカー大会

初出場、初優勝

58年度の県総体中学校サッカー大会は、昭和58年7月25日～26日の両日晴天の中、友部中学校において行われた。準決勝は三和中3-0神栖二中、泉丘中0-0古河二中(PK 4-3)で、決勝は、サッカー王国古河の影響を受け、実力を上げてきた同じ県西地区の三和中と、それを退けてきた県北の泉丘中の対戦となった。両校とも、スピードを活かした攻撃を主体としたが、ややそれにまさる三和中が後半に入り、2点をきめて初優勝を飾った。

・第14回関東中学生サッカー大会

於 群馬県

昭和58年8月10日～11日

猛暑の中行われた関東大会では、1回戦東京代表の府中五中を4-0、準決勝では千葉県代表の宮本中を2-1と下し決勝進出を果たした。2年連続茨城県代表校の優勝をかけて臨んだ決勝戦では、埼玉県代表の神根中と対戦した。前半開始早々先取点を奪われたものの、すぐ同点にし、終了間際にも1点を決め、前半を2-1とリードして折り返した。後半は、一進一退で、三和中は1点差を守り、初優勝をものにし、全国大会へのキップを手に入れた。



第14回 (群馬県城山サッカー場他)
昭和58年8月10・11日

・第14回全国中学生サッカー大会

於 静岡県

昭和58年8月21日～25日

全国から集まった32チームによって熱戦がくりひろげられた全国大会では、1回戦滋賀県代表の日吉中を4-3と延長の末下し、2回戦新潟代表の内野中を2-1で破ってベスト8進出を果たし

た。3回戦では神奈川県代表の富岡中に0-2で破れたものの、初出場でこれだけの戦いぶりに茨城県のレベルの高さを証明することができた。

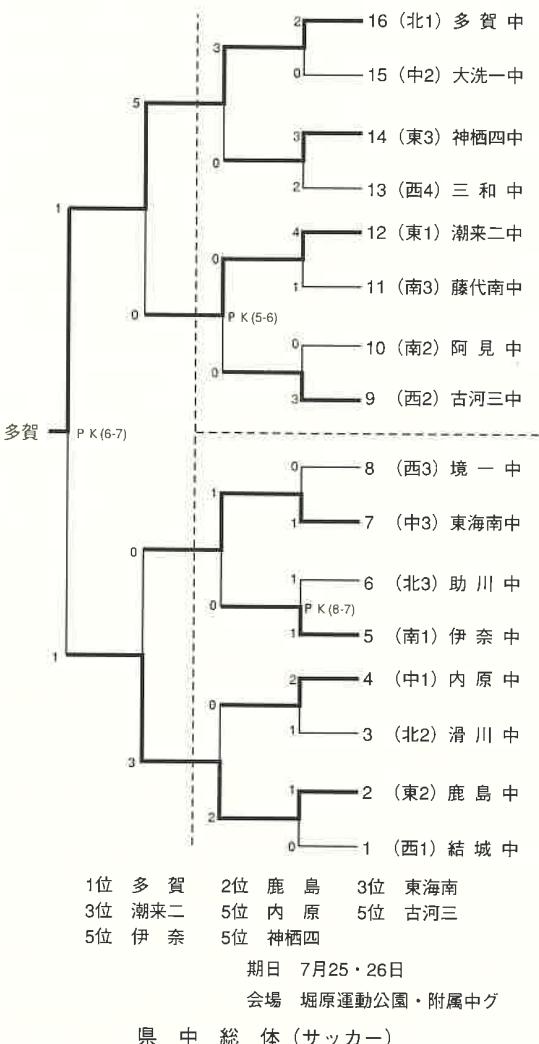


第14回 (昭和58年8月20～25日 静岡)

◆多賀中、21年ぶり県総体優勝！

関東中学生サッカー大会初優勝！

昭和59年7月25日～26日の2日間、堀原運動球技場において行われた県総体サッカー大会は、県北代表の多賀中が、1回戦2-0(対大洗一中)、2回戦3-0(対神栖四中)準決勝5-0(対潮来二中)と勝ち進んだ。決勝戦は、鹿島中と対戦し、一進一退の緊迫したゲーム展開で1-1の引き分けのまま延長、再延長、PKの末21年ぶりの優勝をものにした。



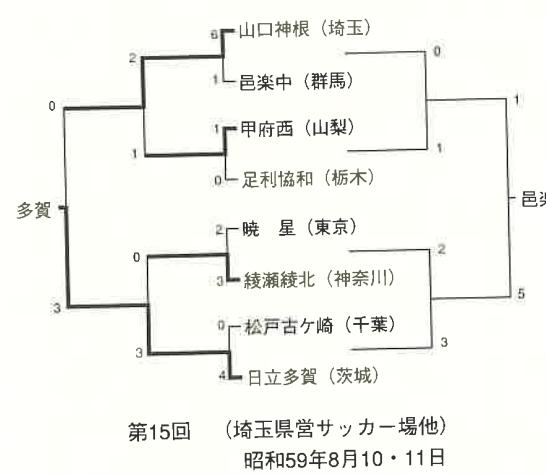
・第15回関東中学生サッカー大会

於 埼玉県

昭和59年8月9日～10日

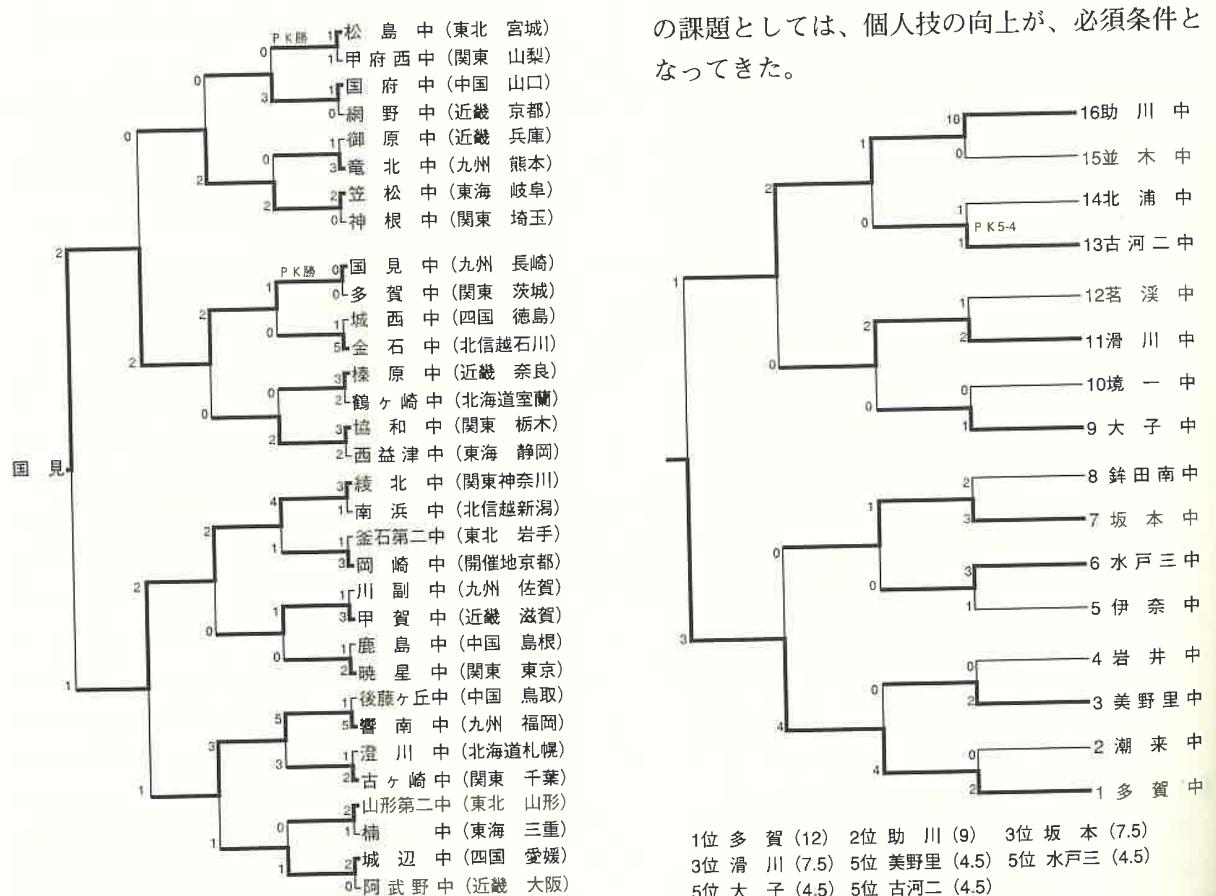
本県代表として出場した多賀中は、前へ突破するスピードを活かし、1回戦4-0、2回戦3-0と危なげなく勝ち進み、念願の関東大会初優勝へむけ王手をかけた。決勝戦は、埼玉県代表の神根中と対戦し、先取点を奪った多賀中が1点差を守り見事初優勝を成し遂げた。

昭和59年8月22日～26日、京都府で行われた第15回全国中学校サッカー大会では、1回戦長崎代表国見中と対戦し、0-0のまま延長の末、PK 3-4で破れたものの、今後の活躍が楽しみである。



K戦での勝利で、苦戦を強いられたが決勝戦は栃木県代表の中村中を5-0で破り、力の差を見せつけながらの2年連続関東制覇を見事成し遂げた。

ふりかえってみると、第9回大会から第16回まで8年連続の茨城県代表校が関東中学生サッカー大会制覇をしている。このことからも、茨城県サッカー界のレベルの高さがうかがえる。しかし、その差は年々縮まってきている。この当時のサッカースタイルはスピードを活かした縦への突破、タッチライン沿いをウイングに走らせ、センタリングをあげていくオープン攻撃が主流で、他県もスピードアップに力を入れてきている。今後の課題としては、個人技の向上が、必須条件となってきた。



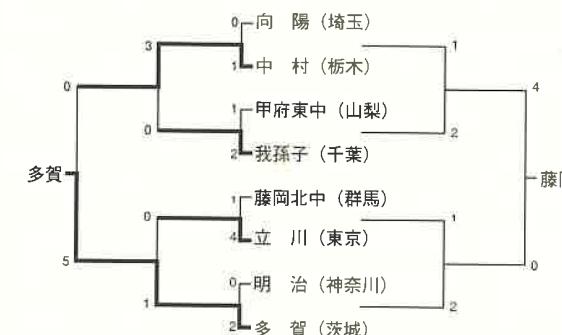
◆多賀中、関東中学生サッカー大会

2年連続優勝!!

・第16回関東中学生サッカー大会

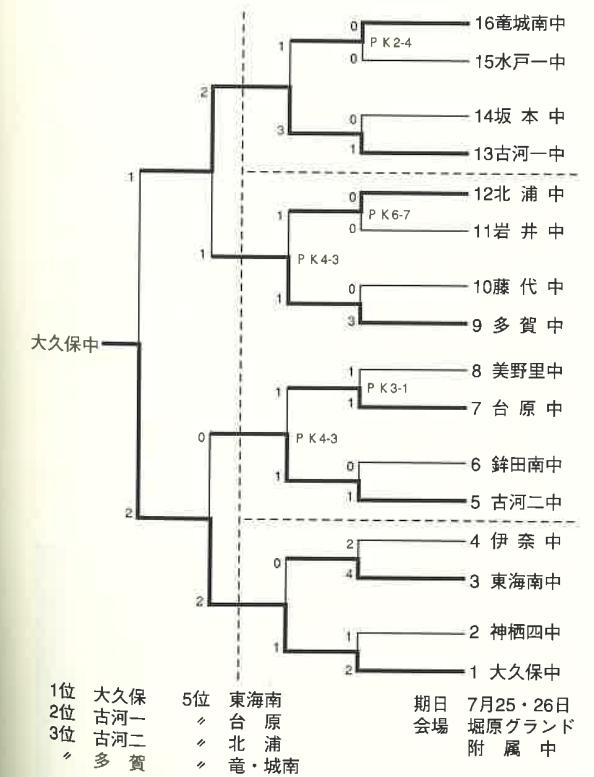
於 三ツ沢サッカー場
昭和60年8月10日～11日

両日雨天のグランドコンディション不良の中、
2年連続で県大会を制した多賀中が、準決勝はP



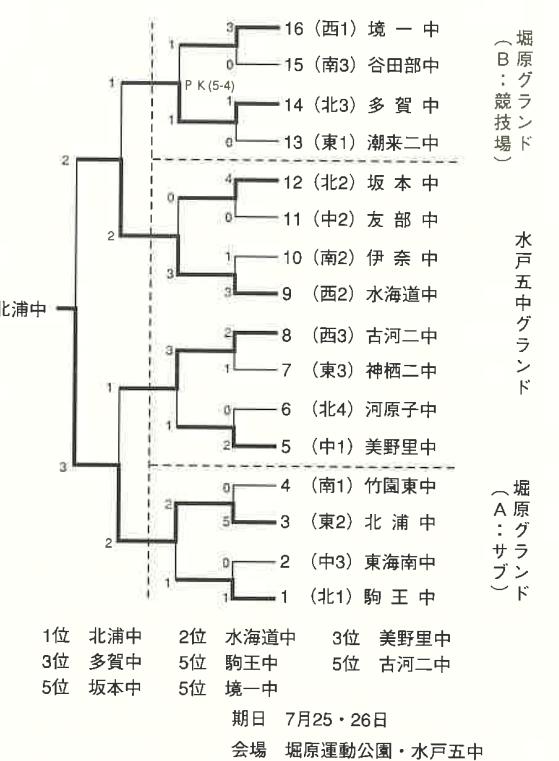
◆大久保中、県総体初優勝!

昭和61年度県総体中学校サッカー大会は7月25日～26日の両日晴天の中、堀原運動公園球技場で行われた。決勝は、対強豪古河一中。両校とも同じサッカースタイルで、スピードを活かしたプレイを主としている。前半を1-1で折り返し、後半22分にFW今村が決勝点を決め、見事県大会初優勝を成し遂げた。



◆北浦中、県総体初制覇!

昭和62年度県総体中学校サッカー大会は、7月25日～26日の2日間、堀原運動公園球技場、水戸5中グランドで行われた。昨年度の県新人大会の優勝校が出場できない、実力伯仲の大会で、準決勝まで勝ちあがった水海道中、多賀中、北浦中、古河2中は優劣つけがたい好チームであった。その混戦を北浦中が制し見事初優勝を決め、久しぶりの県東地区の県制覇となった。



平成8年フットサル県大会決勝
(常総アイデンティVS高萩フォーウィングス)

・第20回全国中学生サッカー大会

於 岡山県

平成元年8月21日～25日

平成元年度県総体サッカー大会で、接戦をものにし、優勝した大久保中は、関東大会でもなんとか敗者復活戦で栃木県代表旭中に勝ち全国大会へ出場してきた。サッカースタイルも縦に蹴ってスピードで競り勝つサッカーではなく、自陣では丁寧にボールをまわし、前線においては個人技を活かし、スピードあるドリブルで相手DFを交わしてゴール前へ切れ込んでシュートを決めるサッカーをチームカラーとしている。

全国大会では、そのチームカラーを最大に發揮し、1回戦から準決勝までの4試合をPKを含めてすべて1点差で競り勝ってきた。決勝では静岡県代表の東海大一中に0-1と負けたものの、準優勝を見事成し遂げた。

一メンバー表

大久保中		東海大一中
	GK	川口 能活(2年)①
①横浜 周孝(3年)	DF	白井 博幸(3年)⑤
②北島 正智(3年)		青木 克憲(3年)⑨
③内藤 宇夫(3年)		杉山 鉄兵(3年)⑭
④東 崇司(3年)		山内 敬紀(3年)⑯
⑤根本 一己(3年)		榎本 篤人(2年)⑮
⑥松下 克仁(2年)	MF	河合 正和(3年)⑥
⑦小沼 幸弘(3年)		望月 孝行(3年)③
⑧船本 保(3年)		杉谷 直紀(3年)⑦
⑨川村 潤(3年)		北村健太郎(3年)⑧
⑩鈴木 恒治(3年)	FW	伊藤 亘(2年)④
⑪森 卓師(3年)		伊藤優津樹(3年)⑩
⑫奈良部則之(3年)		青山 剛(3年)⑪
⑬久古 秀樹(3年)		
⑭長山 真也(3年)		



平成元年全国大会準優勝大久保中イレブン

◆全国大会を終えて

—監督・生徒にインタビュー—

—全国大会を終えてどんな気持ちですか。

生徒：日立多賀駅へついたとき、大勢の人に迎えられうれしかったです。

生徒：チーム全員がスポーツ少年団に入っていますので、いろんな人に教えられました。僕達だけで勝つのではないと思います。

生徒：会場(岡山県)まで応援に来てくれた人々、生徒全員に感謝しています。

—今回の大会を振り返ってみると、関東大会は6位で出場権を得たのに、全国大会では準優勝の好成績。この原因は何ですか。

生徒：チームワーク。それとキャプテンの笑顔です。

監督：キャプテンはFWですが、その笑顔がチームの調子のバロメーターです。それとDFの冷静な判断、この連携がいいんだと思います。2回戦はPK戦になったのですが、どの子もいい顔をしていたのでおもいっきりやってこいと言っただけです。

生徒：PKのとき、キーパーの僕は頭の中が真っ白になりました。

生徒：キーパーのためにもゴールをねらっていました。

監督：昨年と比べると、ガッツにかけますが、非常に真面目でねばり強く、どんな試合でも最後まで捨てたことはないんです。この子達を見ていると“心技体”という言葉を思い出します。

—決勝戦は惜しくも0-1でしたが・・・

監督：相手校は優勝候補と騒がれていましたから、だらしない試合だけはと、懸念していました。それが対等に戦えましたので満足感でいっぱいです。

生徒：泣きたかったけど我慢したんです。

—練習で一番大切なこと、後輩に託したいことは何ですか。

生徒：走ることだと思います。本当につらかつた。

生徒：来年は優勝をねらってもらいたい。そしてサッカーの伝統校と言われるようになって欲しいです。

—最後に監督からイレブンに望みたいことをお聞かせ下さい。

監督：この結果はチームワークと精神力にあったと思います。指導を受けとめる素直な心、この心を忘れず、決しておごることなく次の世界へスタートしてもらいたいです。



第20回(平成元年8月21～25日 岡山 美作)



平成8年県新人戦決勝 鹿島中VS古河二中

◆大島中、県総合体育大会“初制覇”

平成2年度県総体サッカー大会は、前年度の新人大会の県の覇者大島中が順当に勝ちあがり、決勝も茎崎中を2-0として県総体初優勝を勝ち取った。中央地区代表校が県総体を制覇するのは、第1回大会昭和(34年度)の水戸三中、第6回大会(昭和40年度)の笠間中以来、25年ぶりである。

◆境一中、県総合体育大会“初制覇”

平成3年度県総体サッカー大会は堀原運動公園、笠松運動公園を会場に平成3年7月25日、26日、暑さの厳しい中行われた。

1回戦 境一中 6-0 牛久南中

2回戦 境一中 5-0 大島中

準決勝 境一中 7-1 美野里中

決勝 境一中 5-2 双葉台中

◆双葉台中、県総合体育大会“初制覇”

平成4年度県総体サッカー大会は平成4年7月24日・25日の2日間、堀原運動公園に於いて行われた。双葉台中は、高い個人技と正確でスピーディーなパスワークで、昨年度の雪辱を果たし、見事初優勝に輝いた。

1回戦 双葉台中 4-2 総和南中

2回戦 双葉台中 4-2 大久保中

準決勝 双葉台中 4-3 古河二中

決勝 双葉台中 0-0 牛久一中

延長

0-0

再延長

0-0

PK

4-3

◆並木中、県総合体育大会“初制覇”

関東中学生大会“準優勝”

平成5年度県総体サッカー大会は7月22日・23日の2日間、堀原運動公園・笠松運動公園で行われた。試合は出場16チームの差がなく、1回戦から昨年の新人戦の決勝のカードがあるなど、1点差ゲームが多く、接近した好ゲームが展開された。特に決勝戦の並木中、境一中の2チームは、鍛え抜かれた戦術と高い個人技で見応えのある試合となったが、個人技に優る並木中が3-2で境

一中を下し、初優勝を飾った。

・第24回関東中学生サッカー大会

於 神奈川県

平成5年8月9日～11日

1回戦 並木中 5-0 南橘中(群馬県)

準決勝 並木中 2-2 東国分中(千葉県)

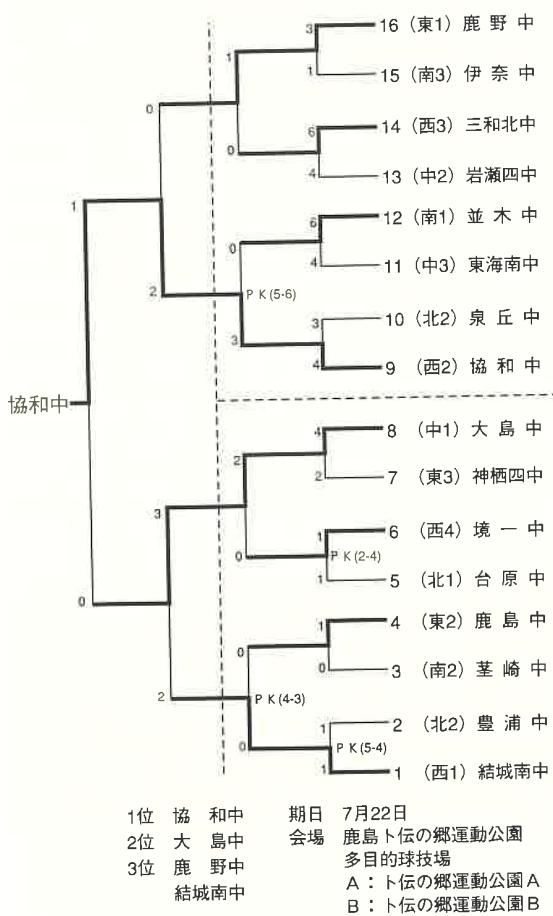
PK

4-2

決 勝 並木中 1-2 泉ヶ丘中(栃木県)

◆協和中、県総体“初優勝”

平成6年度県総体サッカー大会は、7月21日・22日の2日間、鹿島ト伝の郷運動公園で行われた。決勝戦は、協和中と大島中の対戦で一進一退の攻防が繰り広げられた。協和中は、縦へのスピードのある突破を攻撃の中心とし、大島中は、中盤から前線にかけて早いパスワークからの攻撃を中心とした。お互いそれぞれのチームカラーを精一杯出したが、結局、昨年度新人大会の覇者協



県 中 総 体 (サッカー)

和中が、食い下がる大島中を退けて県総体初優勝を成し遂げた。

・第25回関東中学生サッカー大会

於 茨城鹿島ト伝の郷運動公園

カシマサッカースタジアム

平成6年8月9日～11日

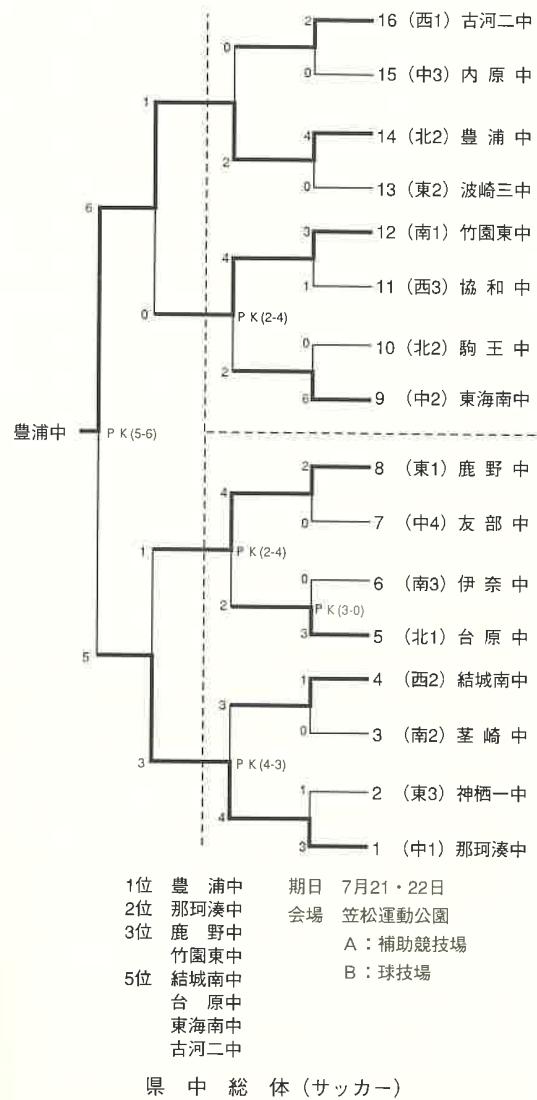
地元茨城開催となった第25回関東大会であったが、本県代表の協和中は1回戦、群馬代表の伊勢崎四中と対戦し、後半、守備の乱れから2点を失い敗れ、敗者復活戦においても初戦、埼玉県代表の三室中と対戦して0-1と敗れてしまった。もう後のない代表決定戦で、東京都代表の西台中と対戦し、3-1と勝って全国大会へのキップを手に入れた。



第25回 (県立カシマスタジアム
ト伝の郷運動公園多目的球技場)
平成6年8月9・10・11日

◆豊浦中 関東大会準優勝

平成7年度県民総合体育大会は7月21・22日の両日、笠松運動公園競技場で行われた。猛暑の中行われた大会は昨年度の新人戦の優勝校・準優勝校が早々と敗れる激戦となり、決勝へ駒を進めたのは、長身三浦をFWとし、カウンターアタックを攻撃の主とする豊浦中と個々の能力の高さに定評のある那珂湊中の戦いとなった。試合は、那珂湊中が前半に先制し、このまま終わるのかと思われたが、豊浦中が後半粘りを見せ、同点、そして2-1と逆転した。また、那珂湊も終了間際、何とか同点に追いつき、延長戦へ望みをつけた。延長戦は、一進一退の攻防で、0-0で終了し、決着はPK戦へと持ち越された。結果、6-5で豊浦中が那珂湊中を下し、優勝、そして関東大会への出場権を得た。



県 中 総 体 (サッカー)

・第26回関東中学生サッカー大会

於 東京都

平成7年8月9日～11日

1回戦 豊浦中 5-1 高島三中(東京)

準決勝 豊浦中 3-2 小山三中(栃木)

決 勝 豊浦中 2-4 高洲一中(千葉)

高洲一中は、中盤からパスを細かくつないで豊浦中DFをくずして効率よく点数をとっていった。それに対し、豊浦中はカウンターアタックをねらう戦法でFWを走らせ、2点は返したものの一歩及ばず準優勝となった。最後まで堂々と戦い抜いた豊浦中イレブンに拍手を送りたい。

● 茨城県サッカー
トレセン活動について

〈目的〉

○小・中・高校生の一貫性を持った選手の強化、育成を図る。

○個人の能力(技術・戦術・体力・精神力)を最大限に発揮させ、茨城代表、日本代表となる選手を育てる。

以上の2つの目的でトレーニングにあたっている。以前は、各チームの強化だけで、個人のレベルが、高くて、チームの成績が良くないと選手の評価も上がらない、中学生だけで、サッカーをやめてしまう選手も多かった現状があった。しかし、個人の能力があれば、茨城を代表する選手として、育てる機会を持ちトレーニングすることでより充実した選手の強化が図れると考えた。

また、指導体制も小、中、高校とそれぞれの年代では、選手の強化育成をしていたが、小学校から高校までの一貫した計画はなかった。中学校をみても、関東地域選抜大会が1月に実施されているが、その大会に出場するための県選抜選手を選考し、大会が終わると選抜選手としての活躍の場がなかったのが現状であった。

そこで、平成5年より、県サッカー協力の技術委員会が中心となって、中学生を中心とした、ジュニア層の強化、育成にあたるためのトレーニングセンターの発足に至った。

〈参加学年〉

○平成5年度参加学年

・中学1年生、中学2年生、中学3年生(各25名程度)



平成7年度県新人戦決勝 守谷中VS神栖二中

○平成6年度参加学年
・中学1年生、中学2年生、中学3年生(各30名程度)
・高校1年生

○平成7年度参加学年
・小学6年生(各30名程度)
・中学1年生、中学2年生、中学3年生
・高校1年生、高校2年生
・クラブチーム

○平成8年度参加学年
・小学6年生(各30名程度)
・中学1年生、中学2年生、中学3年生
・高校1年生、高校2年生
・クラブチーム

〈活動日程、場所〉

○9月より毎月第2土曜日を活動日とし、次年度6月まで実施している。

○ひたちなか市那珂湊運動公園グランドを中心にトレーニングにあたっている。

〈活動内容〉

○トレーニングを2つのセクションに分け、小学6年生から中学2年生までを、ジュニアユースの部とし、ボールコントロールと1対1の個人戦術を中心とした、技術トレーニングを実施している。

また、中学3年から高校2年までを、ユースの部とし、2対2を中心として、グループ戦術の強化を中心とした、実践トレーニングを実施している。

〈指導体制〉

○指導スタッフとして、県技術委員会ジュニア強化委員と第2種、3種、4種の技術委員が担当している。本年度、第4回TC(トレーニングセンター)は、下記の通りである。

指導スタッフ

県トレセン
技術委員長…坂場 節(大宮工業高校)

〈ジュニアユース…小6・中学1・2年〉

主任コーチ…根本 昌範(三反田小学校)
2年コーチ…根本 清史(城西中学校)

2年コーチ…松本 隆(大島中学校)
1年コーチ…花ヶ崎 正美(神栖四中学校)

1年コーチ…寺門 隆明(潮来二中学校)
JYコーチ…星野 文男(境高校)

JYコーチ…内藤 日出海(川島小学校)

〈ユース…中学3・高校1・2年〉
主任コーチ…白岩 淳一(八千代高校)
選抜コーチ…佐藤 誠一郎(日立一高)
選抜コーチ…大内 啓行(波崎柳川高校)
高2コーチ…南雲 康司(桜ノ牧高校)
高1コーチ…田山 晋(那珂湊一高校)
Yコーチ…佐藤 純平(水城高校)
3年コーチ…白井 浩之(勝田一中学校)
3年コーチ…額賀 英彦(神栖二中学校)
3年コーチ…藤代 伸世(鹿島アントラーズ)
また、中学校の指導者が小学校を指導し、高校の指導者が中学校を指導するといったように、色々な角度から選手を指導していくように考えている。

〈各種大会への参加と主な成績〉

〈2年生〉
○関東地域選抜中学生サッカー大会(1月)
第5回大会…優勝…埼玉県浦和市(H 7.1.15)

第6回大会…3位…埼玉県浦和市(H 8.1.15)

〈3年生〉

○全国中学生選抜サッカー大会
・第14回大会…3位トーナメント・3位…静岡県清水市(H 8.1.4)

〈1、2年生〉

○茨城県招待サッカー大会…(古河市12月)

・第3回大会…2年優勝
(H 5.12.27)
・第4回大会…1年優勝 2年準優勝
(H 6.12.27)
・第5回大会…1年優勝 2年準優勝
(H 7.12.27)

○ドイツ、オランダ遠征(H 8.8.23~9.1.)

・中学2年生30名参加

〈選手の育成〉

○指導内容の充実と強化を図るために、各年代に応じた、指導計画を作成し、より一貫した指導ができるようにする。

○海外遠征の機会を計画的により魅力あるものにする。

○各地区TCとの連携を図る。

〈指導者の育成〉

○コーチの力量をアップするための研修会、講習会を計画的に実施する。

〈環境、整備〉

○TC活動への県内各チーム指導者への理解と協

力を図る。

○施設、用具の充実を図る。(芝のグランド等)

○クラブとの連携を図る。

〈活動計画〉

(日程・場所・内容)

○県トレセン…月→1回の第二土曜日

(場所…那珂湊運動公園) 9:30~15:30

*練習内容 一目標一

○基本トレーニング(個人でのボール感覚)

(グループでのボール扱い)

○技術トレーニング(ボールコントロール・1:1)

ドリブル・パス・シュート

☆実践トレーニング(戦術面の強化 2:2・ゲーム)

○各地区トレセン…月→1回~2回…各地区で計画

*練習内容 一目標一

○基本トレーニング(個人でのボール感覚)

(グループでのボール扱い)

☆技術トレーニング(ボールコントロール・1:1)

ドリブル・パス・シュート

○実践トレーニング(戦術面の強化 2:2・ゲーム)



県トレ U-14 ヨーロッパ遠征メンバー

〈年間計画〉那珂湊多目的G

	ユース(高2高1中3)	Jユース(中2中1)
97年4月	第8回県練習会 高2,高1,中3 4/12 那珂湊多目的G	第8回県練習会 中2,中1 4/12 那珂湊多目的G
97年5月	第9回県練習会 高2,高1,中3 5/10 那珂湊多目的G	第9回県練習会 中2,中1 5/10 那珂湊多目的G
97年6月	第10回県練習会 高2,高1,中3 6/14 那珂湊多目的G 反省会	第10回県練習会 中2,中1 6/14 那珂湊多目的G 反省会
96年7月	年間計画作り スタッフの確認 県選考	年間計画作り スタッフの確認 県選考
96年8月	ユース(高2高1中3)	Jユース(中2中1)
96年9月	名簿作成 ジュニア強化研修会 (8/石岡) 中3遠征試合 (神奈川)	県選考 欧州遠征 8/23~9/1
96年9月	第1回県練習会・開講式 高2,高1,中3 9/14 那珂湊多目的G	第1回県練習会・開講式 中2,中1 9/14 那珂湊多目的G
96年10月	第2回県練習会 高2,高1,中3 10/12・13 那珂湊多目的G 笠松G	第2回県練習会 中2,中1 10/12・13 那珂湊多目的G 笠松G
96年11月	第3回県練習会 高2,高1,中3 11/9 鹿島高校	第3回県練習会 中2,中1 11/9 カシマスタジアム
96年12月	ユース(高2高1中3)	ユース(中2中1小6)
96年12月	第4回県練習会 高2,高1,中3 12/14 那珂湊多目的G	第4回県練習会 中2,中1 12/14 那珂湊多目的G
97年1月	第5回県練習会 高2,高1,中3 1/13 那珂湊多目的G 中3 静岡遠征 1/3・4・5	第5回県練習会 中1,小6 1/13 那珂湊多目的G 中2 日立カップ 1/11・12
97年2月	第6回県練習会 高2,高1,中3 2/8 那珂湊多目的G	第6回県練習会 中2,中1,小6 2/8 那珂湊多目的G
97年3月	第7回県練習会 高2,高1,中3 3/8 那珂湊多目的G	第7回県練習会 中2,中1,小6 3/8 那珂湊多目的G

茨城県大会成績

年度	総体	新人	ジュニア	年度	総体	新人	ジュニア
昭34	水戸三			昭53	古河一	古河一	古河二
35	十王			54	古河一	泉丘	泉丘
36	平沢			55	古河二	多賀	古河一
37	古河一			56	古河二	古河一	古河二
38	多賀			57	古河一	潮来二	古河二
39	古河一			58	三和	古河二	多賀
40	笠間	泉丘		59	多賀	助川	境一
41	泉丘	多賀		60	多賀	大久保	境一
42	鉢田南	大久保		61	大久保	古河一	伊奈
43	古河二	多賀		62	北浦	境一	境一
44	駒王	水戸一		63	古河二	境一・結城	野々井・大島
45	鉢田南	古河一		平元	大久保	大島	鹿島
46	鉢田南	大久保	鉢田南	2	大島	泉丘	多賀
47	古河一	下妻	古河二	3	境一	古河二	総和北
48	古河一	古河一	古河一	4	双葉台	境一	美野里
49	古河一	古河一	古河二	5	並木	協和	三和北
50	八千代	古河二	古河一	6	協和	友部	古河二
51	古河一	古河一	古河一	7	豊浦	神栖二	東海
52	古河一	古河一	古河一	8	協和	鹿島	神栖二

(平成8年12月現在)

関東・全国体大会成績

年度	全国大会	順位	関東大会	順位
昭46	古河一	1位		
47	古河一	1位	大久保	1位
48	古河一	3位		
49	古河一	1位	古河一	2位
50			古河一	2位
51	古河一	1位	古河二	2位
52	古河一	3位	古河一	3位
53	古河一	1位	古河一	1位
54	古河一	3位	古河一	1位
55	古河二	5位	古河二	1位
56	古河二	3位	古河二	1位
57			古河一	1位
58	三和	8位	三和	1位
59	多賀	3位	多賀	1位
60	多賀		多賀	1位
61			大久保	3位
62			北浦	5位
63			古河二	2位
平元	大久保	2位	大久保	5位
2			大島	5位
3			境一	3位
4			双葉台	5位
5			並木	2位
6				
7			豊浦	2位

今後の課題

Jリーグ効果もあり、中学生のサッカー競技者も増加の傾向にある。

かつては、中学サッカーは「県総体を制するものは、関東、全国大会を制する」といわれる黄金時代が続いた。しかし、このハイレベルを持続させる努力もむなしくここ数年低迷みにある。

低迷といつても明るい材料もある。各地区トレーニングセンター方式による選手の発掘、育成も軌道にのり、各地区的底辺基盤が確立した。各校顧問の深い理解と地区技術部の計画的な指導によって当初の目的に近づきつつある。

今後は、

- (1) 小学・中学・高校までの一貫した指導体制を確立し積極的に実践する。
- (2) 指導者のレベルアップをはかる。
- (3) 審判員の養成に努める。
- (4) トップチームの強化に努める。

ここ数年の県大会の傾向をみると、地域差がなくなり、全体的レベルアップが図られてきた。ややもすると、常に大会優先に走り、個人の持つ特徴を発揮する場がなかなか与えられない時もあるだろう。各指導者が、個性豊かな選手を育成し強化する必要性を感じる。また、ライセンスを取得し、質の高いサッカーの指導に努めたい。

「よいゲームは、よい選手をつくり、強いチームをつくる」といわれる。初心者及び有級審判員の研修を毎年実施し、養成につとめる。

県ジュニア、新人大会上位チームの強化策を技術部との連携のもとに継続的に実施し、県新人、県総体のレベルアップと、関東・全国に通用するチームづくりを努めたい。

結果は早急に出るものではないが、第二期黄金時代を築くために、今は何をやるべきなのか大きく成長するための転換期を、指導スタッフ、各校顧問の総力を結集して前進していきたい。

少年サッカー

第4種 前委員長 打越 國道

種別に関する専門委員会として、「第四種委員会」が昭和62年6月1日付で発足し、メンバーシップ制が確立された。本県においても、昭和63年4月1日付で「少年委員会規程を制定して、各種大会を主管している。

第4種 少年委員会組織

【○印・県常任理事 ○印・県理事】
【○印・委員長 ◇印・副委員長】
平成8年4月1日～平成10年3月31日

役職名	氏名
顧問	打越國道 宮田乃武衛 久保木茂 河野顕二 白石征二
企画	○山口英雄 ◇小林敏男 ◇稻石公 鈴木茂徳 中村昇 川久保力 浅野正憲 久保武男 ○市毛和夫 ○浅野修
総務委員	○石原繁 大森敏生 出雲三四六 安藏幹夫
地区委員	○川久保力 松島正男 松下吉男 ○中村昇 内藤日出海 金子隆之 ○稻石公 安藤美明 間邊巖
県南	○鈴木茂徳 佐藤勉 滝川岩夫
県北	○小林敏男 阿南哲二 須藤正男
監査委員	○高木俊男 沼田三郎
事務局	大森敏男 出雲三四六 市毛和夫
経理	石川邵 安藏幹夫

第四種委員会(少年)の発足

昭和42年にはじめられた「全国サッカー少年団大会」が52年に「全日本少年サッカー大会」と発展的に改称され、その普及指導によって、全国的にサッカー少年団が増加したので、日本協会の登録

全日本少年サッカー大会

昭和42年、本栖湖青少年センターで「全国サッカー少年団大会」が開催され、第3回大会からよりランドに移り第10回まで実施し、昭和52年から「全日本少年サッカー大会」に改称され平成8年度で第20回記念大会となった。

県の決勝大会は、昭和62年の第10回大会までは市町村代表1チームの出場としていたが、日本協会のメンバーシップ制をうけて、県内5地区の登録チーム数による配分割当制として64チームで実施することとなった。

● 学年別サッカー大会 ●

昭和49年「茨城団体」の終了後、11月23日友部町で「学年別サッカー大会」を開催して本年で第23回になる。第1、2回大会までは5年生、6年生の学年別であったが、第3回大会から高学年を(5・6年生)低学年は(4年生以下)として行うことにして、出場資格も全日本大会と同様市町村代表制をとっていたが、63年の第15回大会から地区別登録数の配分割として、高低とも64チーム、会場も地区輪番制として県主催のメイン大会である。

全日本少年サッカー大会成績

		優 勝	準 優 勝	第 3 位
第1回	昭和52年	日立市SS	古河市SS	総和町SSS
2回	53年	日立市SS	古河市SS	美野里SS
3回	54年	日立市SS	古河市SS	神栖町SS
4回	55年	日立市SS	古河市SS	神栖町SS
5回	56年	古河市SS	境町SS	水海道SSS
6回	57年	日立市SS	境町SS	古河市SS
7回	58年	古河市SS	八千代SSS	東海村SSS
8回	59年	古河市SS	八千代SSS	水戸SSS
9回	60年	日立市SS	古河市SS	八千代SS
10回	61年	日立市SS	古河市SS	境町SS
11回	62年	日立市SS	古河市SS	友部SSS
12回	63年	日立市SS	水戸SSS	境町SS
13回	平成元年	古河市SS	鹿島町SSS	豊郷SSS
14回	2年	日立市SS	総和町SSS	鹿島町SSS
15回	3年	日立市SS	茎崎町SSS	六つ野SSS
16回	4年	日立市SS	古河市SS	中丸SSS
17回	5年	日立市SS	古河市SS	鹿島町SSS
18回	6年	古河市SS	境市SS	日立市SS
19回	7年	ばらきSC	日立市SS	境市SS
20回	8年	古河市SS	境町SS	鹿島アントラーズFC



入場行進する古河市SSイレブン 平成6年



最多出場を誇る日立市SSイレブン 昭和60年

茨城県学年別大会成績

(上段高学年)
(下段低学年)

		優 勝	準 優 勝
第1回	昭和49年	古河市SS	日立市SS
		古河市SS	日立市SS
2回	50年	日立市SS	古河市SS
		日立市SS	日立市SS
3回	51年	古河市SS	結城SSS
		三和町SS	真壁町SS
4回	52年	水海道SSS	古河市SS
		三和町SS	日立市SS
5回	53年	三和町SS	総和町SSS
		日立市SS	古河市SS
6回	54年	古河市SS	真壁町SS
		東海村SSS	古河市SS
7回	55年	日立市SS	潮来SSS
		日立市SS	潮来SSS
8回	56年	古河市SS	神栖SS
		日立市SS	美野里SS
9回	57年	境町SS	日立市SS
		水海道SSS	境町SS
10回	58年	古河市SS	日立市SS
		総和町SSS	美野里SS
11回	59年	八千代SSS	古河市SS
		日立市SS	総和町SSS
12回	60年	八千代SSS	古河市SS
		日立市SS	古河市SS
13回	61年	境町SS	八千代SSS
		水戸SSS	八千代SSS
14回	62年	茎崎町SS	総和町SSS
		六つ野SSS	友部町SSS
15回	63年	古河市SS	西牛谷SS
		中丸SSS	八千代SSS
16回	平成元年	塙山SS	成沢SSS
		豊郷SSS	向台SSS
17回	2年	上大野SSS	日高SS
		友部SSS	港第二SSS
18回	3年	茎崎SSS	横瀬SSS
		波野SSS	利根カカズ
19回	4年	ばらきSC	佐野SSS
		石下第一SS	鉢形SSS
20回	5年	チグリニヨFC	波野SSS
		佐野SSS	ばらきSC
21回	6年	長岡SS	鹿島ジュニオール
		日高SS	(同時優勝)
22回	7年	六ツ野SSS	大野原SSS
		FC郷洲	六ツ野SSS
23回	8年	鹿島アントラーズFC	下結城SSS
		鹿島アントラーズFC	大みかSS

● 中村杯争奪サッカー大会 ●

昭和53年3月10日、第4、6代理事長中村正雄氏が逝去され、御遺族から寄贈された「トロフィー」を『中村杯』と名づけて、昭和55年3月23日、六ツ野運動公園で、54年11月に開催した学年別高学年の部のベスト16チームのトーナメント大会を『中村杯争奪記念大会』と銘うって開催し、以後第1回大会(昭和56年3月)から年度末に開催することになった。この大会の出場資格はその年度の学年別大会の高学年のベスト16チームに所属する5年生のチームの大会として行っていたが、第9回大会(平成元年3月)から会場を六ツ野から5地区輪番制とすると同時に出場チームを24チームとし、登録数の「地区配分割」をとり、学年別の結果に関係なく地区予戦を行うことになった。ただし当番地区からは1チームの推せん枠をもうけ、この大会のベスト4チームには、次年度の全日本県大会への出場権を得て、シードされる事になっている。平成2年の第10回大会から1月中旬に行うことになった。

中村杯大会成績

		優 勝	準 優 勝
第1回	1981年 昭和56年	古河市SS	潮来SSS
2回	1982年 昭和57年	水海道SSS	結城SSS
3回	1983年 昭和58年	日立市SS	古河市SS
4回	1984年 昭和59年	古河市SS	水海道SSS
5回	1985年 昭和60年	八千代SSS	水戸SSS
6回	1986年 昭和61年	境町SS	八千代SSS
7回	1987年 昭和62年	茎崎SSS	八千代SSS
8回	1988年 昭和63年	水戸SSS	ばらきSC
9回	1989年 平成元年	総和町SSS	古河市SS
10回	1990年 平成2年	日立市SS	八千代SSS
11回	1991年 平成3年	協和町SSS	ばらきSC
12回	1992年 平成4年	古河市SS	八千代SSS
13回	1993年 平成5年	日立市SS	古河市SS
14回	1994年 平成6年	古河市SS	境町SS
15回	1995年 平成7年	ばらきSC	佐野SSS
16回	1996年 平成8年	古河市SS	ばらきSC

● JR杯 ●

JR水戸支社・県協会共催、少年委員会主管の大会で、平成元年3月5日、12日JR東日本水戸支社長杯少年サッカー大会が、水戸市のサッカースポーツ少年団を対象に開催され、第2回大会は県サッカー協会中央地区委員会が主管して、中央地区の少年団を対象に勝田市、笠間市、茨城町等で実施された。第3回大会には、中央地区以外に各地区からも参加し、第4回大会から県協会とJRが共催することになり、主管を県協会少年委員会に移し、県内から64チーム参加、『JR水戸支社長杯』として定着して第8回を迎えていた。平成5年の第5回大会から1月の初旬に行うこととし、各地区の出場チームを11月上旬までに決めるよう、登録配分割当によって地区予戦を行っている。

● 関東少年サッカー大会 ●

昭和52年からの「全日本少年サッカー大会」には、各都県の優勝チームが出場するが、当時の関東協会の小野卓爾、小長谷亮策、中村正雄等の諸氏の発案で、各都県の準優勝、第3位の16チームによる「関東大会」という事になって、第1回大会を茨城県(鹿島、神栖、波崎)で開催(以後各都県輪番制)し、本年で第20回大会となる。第14回大会(神奈川県)から第4位までの3チーム出場とし、1日目は8ブロックのリーグ戦2日目はパート別のトーナメント方式で、多くの少年達を参加させ、ゲーム数も多くという事で行っている。茨城代表は古河、日立、水戸がそれぞれ優勝している。

● 関東選抜少年サッカー大会 ●

各都県で選抜した6年生を一堂に集め、お互いに学び競い合う機会を与え、併せて将来にむすびつく選手の発掘と育成の一助にと、関東少年サッカー連盟の結成(昭和63年)、発足を記念して、平成2年から開催して本年で第7回になる。

第2回から東京ガス株式会社の協賛を得、第5回大会から『東京ガス・ペレカップ』としての名称変更を関東協会の認を得ている。本県ではこれに出場する2チームの選出について、各地区でトレセンを随時行い選抜チームを作り、11月下旬に5

地区総当たりのリーグ戦を行って出場するチーム及び子供等を選んでいる。

● 全国トレーニングセンター ●

日本協会、第4種委員会が2002年のワールドカップに備えて、全国9地域から(地区16名)選抜選手を集めて指導強化しようと、平成2年度から、第1回トレセンは茨城の鹿島ハイツで行われた。関東の16名は第1回の関東選抜大会の優秀選手を第2回からは各県から2名を推せんして出場させていたが、平成7年度からは関東少年連盟の技術部会でトレセンを行って選んでいる。

● 県スポーツ少年団スポーツ大会 ●

昭和60年から県スポーツ少年団主催のサッカー大会が始められ、本年で第12回大会となった。この大会の参加は県内市町村代表の1チームということで、各市町村の教育委員会を通じて毎年60チーム近くが参加して、笠松、六ツ野、佐和工場、那珂湊等のグラウンドで交流大会を行っている。

● 東日本少年サッカー大会 ●

主催 東日本少年サッカー大会実行委員会
茨城県サッカー協会
主管 茨城県サッカー協会県東少年委員会
後援 茨城県、教育委員会、体育協会
ワールドカップ招致委員会
各新聞水戸支局、日本放送協会、等
協賛 鹿島アントラーズ、各企業、公社
諸団体、等

趣旨

- 1) 地域交流とサッカーの普及推進及び青少年の健全育成
- 2) ワールドカップ会場招致推進
- 3) 県立カシマスタジアムの利用推進

8月下旬県内外から64チームを招待して、1日目はブロック別のリーグ方式によって順位を決め、2日目はこの順位別によるトーナメント戦、3日目は各トーナメントの準決、決勝及び順位決定。非常に盛大な大会で平成8年度で第3回を迎えた。

● その他の諸行事 ●

(1) 各地区の任意で行っている各学年のトレセン・市町村その他県内外との交流親善大会等底辺の拡大と育成・強化に関係者は協力し合いその成果は県協会の発展・充実の基礎となっている。

(2) “さわやか”サッカー

FIFAとコカ・コーラ株式会社が共同開発した「GO・FOR・GOAL」を教材として、「さわやか・サッカー教室」が茨城県でも昭和53年から毎年希望する地域で行なわれ、少年、指導者、その他のサッカーに興味のある方々の参加を求めて、実技指導と交歓会を行っている。

(3) 笠松スポーツ天国

昭和52年、5月、6月、7月、9月、11月の6ヶ月、各月の第3日曜日を“スポーツ天国”として笠松運動公園を無料開放して、少年サッカーリーグを始め、小学生4年、5年、6年の学年別の大会を行って今まで続いている。

(当時の黒沢良一郎所長と、現志村巖会長からカップの寄贈があった。)

(4) 少年サッカー技術講習会

日本サッカー協会が主催、(財)日本船舶振興会の補助による講習会が、昭和51年7月東海村で、



古河市サッカーチーム3位入賞



平成7年 全国少年サッカー大会

日本協会から、三宅参次郎氏、堀田哲爾氏、が来県されて3泊4日の期間実技とともに充実した講習会が始められ、以後毎年、東日本西日本で行われている。その他1泊2日の講習会が全国30箇所で開催され希望者は、指導の理念、実技の講習を受けて、指導者としてのライセンスをもらっている。

(5) 東関東少年サッカー大会

昭和54年、利根コカ・コーラ(株)のテリトリーである、千葉、茨城、栃木の少年サッカーの交流によって、少年達の精神及び身体の健全な育成を図り、サッカーの技術向上と親睦融和を深めようと、当時の中野栄三郎社長が3県の担当者と話しあいがなされて『中野杯争奪東関東少年サッカー大会』と称し第12回大会まで3県輪番で、平成3年第13回大会から『利根コカ・コーラ杯争奪東関東少年サッカー大会』と改称して平成8年で第18回大会を迎えた。

第1回から第4回まで小学生(4、5、6年生)中学生1、2年生も参加していたが、中学生の参加が困難となり、第5回大会から5年生チームをA、Bのブロックからそれぞれ2チーム参加となり、現在のチーム編成となった。

チーム編成 単独チーム、選抜チームいづれでも可

チーム数

- | | |
|------------|--------|
| ① 6年生以下の部 | 各県2チーム |
| ② 5年生以下の部A | 各県2チーム |
| 5年生以下の部B | 各県2チーム |
| ③ 4年生以下の部 | 各県2チーム |



第2回世界ジュニアサッカー選手権大会 橋本信二君(豊浦小)

海外に目を向けることも、忘れてはいません。何しろ協会を作ろうということになったのは、香港に遠征をしてからです。現在でも海外視察や遠征はずっと続けられています。つくばの国際協力事業団(JICA)チームとの交流試合をはじめ、ドイツ・エフェレン市との交歓、ドイツをはじめとするヨーロッパ視察等々、盛んに国際交流を実施しています。先進的な国々のサッカー事情を目の当たりにすることで、自分たちにできることをきちんと把握し、子どもたちへの指導、自分たちのプレーに生かしたいと、努力しています。

常総サッカー協会も来年度で20周年を迎えます。10周年記念事業としては松本育夫氏の講演を行い、協会関係者ばかりではなく、他地域のサッカー関係者も多数出席してくれ、盛大な記念事業ができました。あの時は10年後の今日の盛況を、予想することができた人が正直言って何人いたでしょうか。そして、10年後の状況をどう予想したらいいのでしょうか。常総サッカー協会の理念である『上をみながら、下を固める』を実践していくために、より重要な10年になることは間違いないはずです。

常総サッカー協会の年間行事

事業計画：月予定

- | | |
|----------------------------|--------|
| 4月 定例総会 | |
| 5月 第18回さわやか杯 | =少年部= |
| J F Aカップ戦 | =社会人部= |
| ~7月 | |
| ※常総運動公園グランド改修につき本年度のみ、日程変更 | |
| 4級審判資格取得講習会=審判部= | |
| 6月 | |
| 7月 第19回サッカーフェスティバル | =少年部= |
| 指導者講習会 | =審判部= |
| 8月 第17回ランバードカップ=少年部= | |
| 第13回常総高校生大会 | |
| 常総広域圏中学生大会 | |
| 9月 J F A社会人リーグ戦 | =社会人部= |
| ~12月 | |
| 10月 第5回常総カップフットサル大会 | =少年部= |

- | | |
|-------------------|-------|
| 11月 | |
| 12月 審判技術講習会 | =審判部= |
| 1月 | |
| 2月 指導者講習会 | =審判部= |
| 常総少年サッカーリーグ | =少年部= |
| 3月 常総広域圏社会人サッカー大会 | |

その他

- 機関誌『J F A プレス』発行(年4回)
社会人リーグハンドブック作成
協会創立20周年記念事業計画

常総サッカー協会の組織・役員

平成8年度

会長	中村 力
副会長	竹村菊雄
理事長	鈴木茂徳
理事	(社会人部)
社会人部長	山野井寿雄
	長津 東
	古澤康之
	柏倉 章
	戸塚一彰
	古木紀行
	井橋伸夫
	相良和司
	笠倉真一
	(少年部)
少年部長	村井勝弥
	田谷浩二
	外山 薫
	麻生昭彦
	大久保富夫
	岡島輝樹
	猪川勝也
	大島博文
	谷田貝秀紀
	高木 忍
	藤井周哉
審判部長	倉持 功
広報部長	田村 茂
事務局長	丹沢正次
会計	石山俊樹

県北

日立市サッカー協会

〒316 日立市諏訪町1-18-3 伊藤スポーツ内
TEL 0294-34-1470

会長
宮田乃武衛氏



主な普及・育成事業

- Jリーグプレシーズンマッチの開催
- 茨城国際ユースサッカー大会の開催協力
- 市内指導者交流会の開催
- 市内サッカー愛好者交流会の開催

協会会員は各種行事への積極的な参加と合同事業運営に活躍しているが、行事運営で障害となっているものに、グランドの確保の困難さがある。

また、協会の運営能力の育成の問題など少なくない。

最近盛んになってきた、女子サッカーの育成にも努力し、高校女子では2チームが昨年誕生し、関東大会に出場した。

日立市サッカー協会は地域サッカーの振興・発展のため組織を強化し、会員が一丸となって努力している。

加盟団体

少年団	130チーム	1,500名
中学校	13チーム	800名
高等学校	7チーム	500名
市民リーグ	36チーム	800名
市民サッカー大会	109チーム	1,700名
四十雀		50名
女子		60名
合計	6,000名	のサッカー人口があり、地域スポーツとして、広く市民に定着している。

主な年間行事

- 市民リーグ 前・後期 36チーム
市民サッカー大会 109チーム
市長杯サッカー大会 109チーム
県北社会人サッカー大会 23チーム
サッカーフェスティバル 86チーム
サッカーフェスティバルでは少年団から六十雀・女子・職場のチーム・同好会などバラエティーに富んだ86チームが参加して、勝ち負けによりサッカーを楽しむ集いとして開催し、お楽しみ抽選会やボールリフティング・3 on P Kゲームなど、だれでも参加できる企画で、一日をサッカーで堪能する企画だ。

主な招待大会

- 小・中・高の県内・外のチーム招待試合
桜カップ少年サッカー大会
日立ライオンズクラブ杯中学校サッカー大会
高校サッカーフェスティバル
など県内・外から多数のチームを招待し、大会を開催している。

協会役員

会長 宮田乃武衛	理 事 熊谷勇治
副会長 鎌田 洋	堀井博夫
	大越典一
	鈴木 宏
参 与 橋本敦夫	白田隆史
	大高良憲
	高須徳二
	白石征一
	志村 巍
	若松義弘
	福地 司
	大江文博
	佐藤 彰
理事長 青柳 勇	小林敏男
部 長 海老原久男	伊東 裕
	小泉敏治
	及川 一
	秋山武彦
	皆川直司
理 事 佐野敏一	櫻村重幸
	小塙隆一
	鈴木 朗
	緑川 貴
	小又武明
	蛭田清伸
	生田目王雄
監 事 伊藤和彦	幹 事 田村俊男

Jリーグで活躍している茨城県出身の選手たち

①生年月日・年齢 ②身長・体重・血液型
③出身地・出身チーム・出身校 ④寸評 ⑤代表歴・(通算成績)

●鹿島アントラーズ

GK 市川友也

- ①1976年12月12日生・20才
- ②184cm・69kg・O型
- ③茨城・鹿島ユース・鹿島中
- ④シュートに対する反応の早さは抜群。唯一鹿島ユース出身で地元の期待も大きい。

GK 小沢英明

- ①1974年3月17日生・22才
- ②188cm・82kg・O型
- ③茨城・水戸附高
- ④チーム一の長身でハイボールの処理には定評がある。昨年は出番がなかったが、経験を積めば将来楽しみな選手。



FW 鈴木隆行

- ①1976年6月5日・20才
- ②182cm・75kg・O型
- ③茨城・日立工高
- ④スピード・得点力を兼ね備えた大形CF、サテライトではチーム一の10得点。今季はトップのFW争いの一馬力に食い込みたい。

FW 真中靖夫

- ①1971年1月31日・25才
- ②170cm・72kg・O型
- ③茨城・岩井西高
- ④左右両足からの強烈なシュートは魅力。市原の兄・幹夫は一步先にレギュラーに定着した。早くスーパーサブから脱却したい。

●ジェフ市原

DF 真中幹夫

- ①1969年5月22日・27才
- ②172cm・70kg・O型
- ③茨城・境高→茨城大
- ④忠実なカバーリングでレギュラーの座をがっちりキープ、思い切りのいいプレーと持ち前のガットでDFラインを引っ張る。

DF 井坂鉄平

- ①1974年10月23日生・22才
- ②180cm・67kg・A型
- ③茨城・水戸附高
- ④昨年は出場の機会に恵まれなかったが、長身を生かしたヘディングをアピールして、今季はトップ入りだ。



●名古屋グランパスエイト

MF 浅野哲也

- ①1967年2月23日生・29才
- ②184cm・78kg・O型
- ③茨城・鉢田一高→トヨタ蹴球団→トヨタ自動車
- ④中盤の守備と果敢なミドルシュートが魅力的だ。選手会長を務める。
- ⑤元日本代表(8試合1得点)

DF 平山 大

- ①1972年6月3日生・24才
- ②183cm・72kg・O型
- ③茨城・境高→中央
- ④ベンゲル監督がその素材に惚れ込んでいるセンターバック。空中戦には絶対の自信を持つ。同期・大岩と定位置争いだ。

●京都パープルサンガ

MF 野口裕司

- ①1972年2月25日生・24才
- ②174cm・68kg・O型
- ③茨城・境高→駒大
- ④得点力もある右サイドのチャンスメーカー一年目からレギュラーに定着した中心選手だ。Jでの活躍が期待される。

ユンテジョ

フィジカルコーチ 尹台祚

- ①1964年5月18日・32才
- ②181cm・82kg・O型
- ③茨城・茨城朝鮮高→朝鮮大→カルフォルニア州立大
- ④パソコンの趣味と実益を兼ねてデータの収集でイレヴンの肉体改造に挑む。主にリハビリ部門を担当する。

●セレッソ大阪

DF 木沢正徳

- ①1969年6月2日・27才
- ②170cm・62kg・B型
- ③茨城・古河一高→市原
- ④右サイドからの攻撃参加はスピードがあり威圧的。攻守ともにC大阪にとって不可欠な選手となった。



DF 渡辺 卓

- ①1971年11月9日・25才
- ②187cm・79kg・AB型
- ③茨城・水戸商高→平塚
- ④空中戦とタイトの強さが抜群のストッパー。セットプレーでの高さも魅力。新天地でもDFの柱としての期待は大きい。



●ガンバ大阪

DF 橋本雄二

- ①1972年2月25日生・24才
- ②183cm・72kg・O型
- ③茨城・日立工高→東海大
- ④出場試合も倍増し、ガンバのDF陣の中心選手に成長。



●ブランメル仙台

DF 入井和久

- ①1970年10月18日・26才
- ②169cm・64kg
- ③茨城・日立工高→本田技研→鹿島→柏
- ④今季、柏レイソルから移籍。攻撃参加の際の正確なセンタリングが売り物。Jリーグ元年に鹿島アントラーズでシリーズ優勝を経験。